

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	鈴鹿市第1療育センター		
○保護者評価実施期間	令和7年12月8日		～ 令和8年1月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	118	(回答者数) 59
○従業者評価実施期間	令和7年12月8日		～ 令和8年1月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団療育、訓練(年中まで)親子通所を行っている。</li> <li>・ペアレントトレーニングを実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さまの得意なことや課題、適切な対応方法を共有し、日常生活の中で活かしていただけるよう取り組んでいる。</li> <li>・ペアレントトレーニング(ペアトレ)は、療育時間内に実施し、毎回同じ職員が継続して関わることで、経過を追いながら最後までフォローできる体制を整えている。</li> <li>・少人数で実施することで、ロールプレイや意見交換がしやすい環境とした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者様と話す機会を意識的に増やし、保護者様が安心して話しやすい環境づくりにも努めていく。</li> <li>・保護者様同士がつながりを持てる場を提供していきたい。</li> <li>・未就園児・肢体不自由児クラスの親子通所において、保護者様と職員が十分に話をする時間を確保できるよう工夫していきたい。</li> <li>・人事異動等を見据え、ペアレントトレーニングに精通した職員を段階的に増やしていきたい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種で療育を行うことで、お子さまにいろいろな視点で支援を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議に限らず、療育会議や朝礼なども活用し、情報共有を行いながら多職種で対応を検討している。</li> <li>・会議内容は記録として残し、参加できなかった職員にも周知できる体制を整えている。</li> <li>・専門職ができる限り日常生活に近い状況で評価を行うとともに、生活の流れや保護者様(母)の負担を想定しながら、適切な声かけや支援方法を選択している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種によるケース(事例)検討の機会を設ける必要性があり、時間を確保できるよう工夫していきたい。</li> <li>・意見交換等を継続して実施することで、より質の高いサービス提供につながるよう努めていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・託児サービスを実施することで、保護者様が親子療育に安心して参加できるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・療育における職員配置に支障が出ないよう配慮しつつ、託児を保障するため、ボランティアの協力を得て調整している。</li> <li>・SNS等を活用してボランティアの募集を行っている。</li> <li>・対象児への支援を安定して確保するため、継続的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアと職員と一緒に研修に参加できる研修会を企画し、連携しやすい体制づくりを目指したい。</li> <li>・おもちゃ図書館の行事等において、ボランティア募集の呼びかけを引き続き行う。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通訳・翻訳職員を配置して外国籍の保護者様とのコミュニケーションを図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通訳職員が不在の場合は、法人内で調整し、可能な限り臨機応変に対応している。</li> <li>・保護者様の思いを丁寧に受け止めるため、通訳職員が同席し、センターでのお子さまの様子や支援方法等についても、通訳を通して詳細に共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍の利用児が増加している現状を踏まえ、可能な限り同じクラスに配置することで、保護者様同士の横のつながりを持ちやすい環境づくりを行っていく。</li> <li>・通訳職員が急遽不在となった場合にも対応できるよう、他部署等へ応援を依頼できる体制を平時から整えておく。</li> <li>・今後も外国籍の利用が見込まれることから、引き続き柔軟に対応できる体制づくりに取り組んでいく。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別訓練の予約が取りづらい状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9時から、または15時からの枠に予約が集中しやすい状況がある。</li> <li>・訓練士の勤務体制の影響もあり、時間枠の調整が難しい現状がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練回数を確保するため、月2回希望の場合は、1回を15時、もう1回を14時に来所していただくなど、時間調整について保護者様へ協力をお願いしていく。</li> <li>・利用者様のニーズに沿った働き方に向けた検討が必要。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者様の相談支援体制が整っていない状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを数か月ごとに担当固定で運営しているため、保護者様から「誰に相談すればよいか分からない」という意見が挙がっている。</li> <li>・日常的に保護者様と話をする時間を確保することが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間や相談支援専門員との情報共有を通して、保護者様の日頃の状況や思いを把握できる体制づくりを行っていく。</li> <li>・保護者様の悩みに寄り添えるよう、親子通所の強みを活かし、日頃から相談しやすい関係づくりに努める。</li> <li>・年度初めに、相談先について「きずなネット」を活用して周知する。</li> <li>・保護者様へお子さまの様子を共有する際には、困りごとがないかを適宜確認するよう努める。</li> </ul>